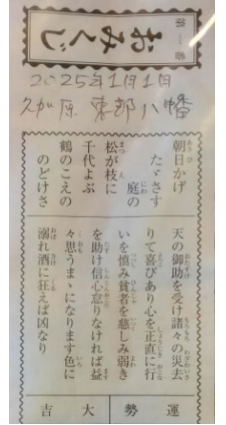


【元旦に百円御籤引きぬくと 一番大吉欣喜雀躍】

元旦の午後に近所の久が原東部八幡神社へ初詣。賽銭も手元にある小銭と相談で賽銭限、もとい最低限に抑えて願掛けも絞り込んで家内安全と健康長寿のみにする。高齢時代の恒例行事は御籤確認だけだ。という基本方針に則り 100 円を投入して引く。第一番のお御籤は、大吉と書かれてある。こいつは春から縁起が良い。



昨年の正月から復活した秋葉原・昌平幼稚園でのゲームボランティアが 2 回。シニアステーション向けが 1 回。今年追加依頼を受けた千葉市の小学校向けが 2 回。なんとゲームボランティアが 5 回ある正月となり、謝金（借金ではない！）合計が一万円ちょっと。一番大吉の効果があったかも。

洒落飛ばし謝礼受け取る年明けは 巳年の実入りヘビーの予感 交通費出さずに回る初詣 一番大吉感謝感激

【緊急の故郷帰省お見舞いは 経過良好一旦安堵】

97 歳になる（小生の二回り上なので年齢を忘れる事は無い）お袋が急遽入院。会える時に会っておかなくてはと、一泊二日で長崎へ帰省した。

相模原在住の下の妹と往復の航空便を合わせ、21 日午後に入院先の病院到着。面談は 30 分、3 人までというので長崎在住の長妹と 3 人で見舞う。担当女医さんから入院後回復途上にあるという説明を受けて、幾分かほっとする。入院は暫く続くという状況だが、帰省して顔を見ることができて、いい親孝行になっていると思うことにした。

帰省した日の夕食は下の妹と行列人気の「勝鹿」でとんかつ定食。

食後暫し散歩のあと、午後 9 時に日経新聞長崎支局長となっている若杉敏也氏とホテルで会う。若杉氏は小生の新聞デビューの記事（ゲームに嵌まるサラリーマンという内容）を書いてくれた記者であり、その後ジョークサロン創設者の山下廣蔵さんとの縁を繋いでくれたのだ。面談は 15 分程度で終わり、彼はそれから夕食とのこと。新聞記者は忙しいものですね。



22 日は午前中に親父の墓参りやお土産購入。安堵の気持が大きくなり、からすみ（廉価なパウダー）・カステラやらなにやらにやら、長崎弁かるたや世界遺産になった軍艦島関連本やハガキ・マグネット等購入。

昼は「朝次郎（「昼」でも「夜」でも朝次郎）」で安くて旨い刺身定食。

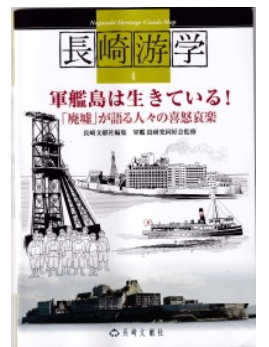
午後 2 時からの見舞いは規則通り制限時間 30 分だが、回診治療が入ったので中断延長となった。妹が「昨日、今日とお兄ちゃんにご馳走して貰ったのよ」と報告するとお袋の顔に笑みが浮かんだ。これも親孝行かも。



夕方の飛行機まで数時間あるので、眺望絶佳の稲佐山（333M）に登ることにした。行きは 2020 年 1 月開業のスロープカー。帰りはロープウェイ（開業は 1959 年 10 月）。頂上付近にとどまったのは僅か数分の強行観光を敢行した。

初めてのスロープカー。数十年ぶりのロープウェイ。

強行日程の帰省でのちょっとした息抜きだったが、完成したばかりというピーススタジアム（ピースタ）を見ることが出来た。



帰るたび様変わりする長崎で 変わらぬものは和華蘭の味 年末に軍艦島のドラマ見て 長崎のこと知らぬ身を知る 幼き日母に習いしことどもが ふと蘇る見舞いの帰省 「美味しい」が読めず尋ねた幼き日 今蘇る「おいしい」の声



「新 長崎弁かるた」 から「のもところいち」の読み札・取り札を笑介します。



**の**  
のーづけなし

のーづけなし 餌のわかるかとかなー。  
※一匹も釣れない 餌がわるいのかなー。



**も**  
もってこーい!!

「もってこーい!!」龍踊りは迫力のあんなー。  
※「アンコール!!」龍踊りは迫力があるなー。



**と**  
とととと?

とととと? とととと。  
※とっているんですか? とっていますよ。




**こ**  
こすかー!!

こすかー なんでにいちやんだけさー。  
※するい なんでお兄ちゃんだけなのー。



**う**  
うかしかー

うかしかー こけてしもーた。  
※はすかしいー ころんじやった。



**い**  
いっちゃん好かん

いっちゃん好かん 舌かとやもん。  
※ちっとも好きじゃない 舌いんだもん。



**ち**  
ちんぐ

ちんぐやっけんねー おいたちは。  
※親友だよねー 俺たちは。

標準語 餌がわるいのかなー。

のーづけなし  
餌のわかるかとかなー。

主に転されている地域

県南	県北	県央	県東	五島	西岐対馬
●					●

標準語 「アンコール!!」  
龍踊りは迫力があるなー。

もってこーい!!

主に転されている地域

県南	県北	県央	県東	五島	西岐対馬
●					

標準語 とっているんですか?

とととと?  
とととと。

主に転されている地域

県南	県北	県央	県東	五島	西岐対馬
●					

標準語 するいー  
なんでお兄ちゃんだけなのー。

こすかー なんで  
にいちやんだけさー。

主に転されている地域

県南	県北	県央	県東	五島	西岐対馬
●					●

標準語 はすかしいー  
ころんじやった。

うかしかー  
こけてしもーた。

主に転されている地域

県南	県北	県央	県東	五島	西岐対馬
				●	

標準語 ちっとも好きじゃない  
舌いんだもん。

いっちゃん好かん  
舌かとやもん。

主に転されている地域

県南	県北	県央	県東	五島	西岐対馬
●					

標準語 親友だよねー 俺たちは。  
おいたちは。

ちんぐやっけんねー

主に転されている地域

県南	県北	県央	県東	五島	西岐対馬
●					●

特別付録です。

会社時代の後輩で現在は伝笑鳩読者の平光庸司氏から思いがけない手紙が到着。

涙が出るような所もありましたが、笑いながら拝読しました。ご笑覧下さい。

下は上をしっかりと見ているのですねえ。続編を期待している次第です。

#### 野本浩一先輩回顧録

初めて野本さんに会ったのは今から41年前の1984年で、私が入社4年目の社内ローテーション制度で名古屋の経理部門から本社営業部門に異動した時でした。ちょうど本社営業部門は東京丸の内から名古屋工場に移転してきて間もない頃で、本社と言いながら「製販統合」を謳い工場勤務という体制でした。今も同じでしょうが当時の幹部も何か突飛なアクションを起こし、業績が良化すれば手柄にしたいという大会社にはありがちな考えでした。実際この逆で「製販分離」の動きもありましたが、西へ東へ異動させられる社員はたまったものではありません。こうした背景で東京から来た営業部門の若手が野本さんでした。野本さんは私より5年先輩でしたが入社以来後輩がおらず、私が異動してようやく「下」ができ喜んでいる様子でした。野本さんは国内、私は海外営業担当でしたので直接の仕事関係はありませんが、同じ「島」で仕事をされていた野本さんの存在は異質でした。

当時の課長は誰がどう見ても人間性に問題ある人で、私もローテーション前から「鬼課長が牙を研いで待っているからな」と脅されていましたのでそれなりの覚悟はありましたが、いざ行ってみるとその通りでした。課長以下既婚者全員が単身赴任で社員寮に入っていましたので、夜な夜な課長以外の課員が中村区大門にある萬珍軒に集まり、ガス抜きをするとともに、課長をから逃げていち早く東京に戻ろうと「萬珍軒の誓い」でパルチザンのように地下で集まっていました。

ある時課長が病気になり、野本さんが「課長の単身赴任寮にお見舞いにくぞ」と後輩の私を連れて行ったことがありました。パルチザンの先輩たちは「お見舞いに行くなんてありえない、お前は嫌われているんだぞ」と止めましたが、野本さんはそれでも課長のことを不憫に思いお見舞いに行ったのです。結果、課長は野本さんに目もくれず完全に無視。野本さんは媚びへつらいでも、恩着せがましくもなく、会社は会社、個人は個人として心配してお見舞いに行っているにも拘らず、それを無視する人を私は初めて見ました。それから暫くして野本さんの長崎の実家でお母様が危篤の時、休暇を申請したにもかかわらず、休暇を許さなかった課長です。今ならパワハラで即排除される人材でした。でも野本さんは課長からどんな攻撃を受けてもあまり意に介していない雰囲気でもいつも飄々とした雰囲気でも会社生活を送っていました。しかしながらその飄々さは、全く仕事に興味がなかったからかもしれません。どう見てもサラリーマンには向いていなさそうな人です。また、興味があること以外は自分本位で、基本的に人の言うことは聞いていないタイプでしたが、もともと人が好きで必要以上に人を信用するところがあるのでしょう。そう言えば、新幹線で隣席の人と話すなら「30秒以内に声掛けするべき」と教えられたことがあります。結婚のきっかけも、奥様のお父様になる方と映画館で隣通しになり、30秒以内に声を掛け意気投合したことが発端だと聞いたことがあります。

話は尽きませんが、私をアダルトゲーム協会に勧誘し、私が海外出張のたびに出張報告代わりにボードゲームを買ってくるよう要求した野本さん。カラオケはいつもビートルズで腰を振りながら歌う野本さん。会社で「あじ野本さん電話です」と電話を取り次いだら「ハイミーです」と応えた野本さん。何故か縁もゆかりも無いフィリピンに駐在した野本さん、体型からは想像できないエアロビインストラクターになった野本さん、東大法学部のクラスメートが自部門の取締役になっても人生の幸福度・人望では数倍上を走っている野本さんの生きざまは、失礼ながら救い難い無頓着さとともに如何にも魅力的で私の人生の1ページを賑やかにしてくれています。A4では書ききれない1ページなのでこのあたりで一旦筆を置くことにします。

2025年1月19日 後輩平光